



09年原水爆禁止 国民大行進

核兵器のない世界へ

オバマ米大統領演説に賛同

オバマ米大統領は4月5日のプラハの演説の中で、「世界に数千発の核兵器が存在していることは、冷戦の最も危険な遺物」であり、「核兵器の拡散が不可避だと信じれば、核兵器の行使も避けることができる」と警告しました。

そして、「アメリカは、核兵器のない、平和で安全な世界を追求していくことを世界に宣言する」と述べ、世界の諸国民に呼びかけました。この演説は、世界の最強の核兵器保有国の指導者が核兵器廃絶の展望を示した点で画期的なものでした。このオバマ大統領のプラハ演説に対し、世界各国で賛同の声が大きく広がっています。

憲法9条と核廃絶は同じ平和への道

「九条の会」 大江健三郎さん

私は死ぬ前に核廃絶は行わないのではないかと思っていました。しかし、今はそうでなくなっています。これから10年、20年の間に、私たちの憲法は、私たちの国と他の核保有国の間の信頼関係をつくりだす、一番大きい条件となるのではないだろうか。それは、現に進行しているのではないだろうか。私は、ある喜びの感情とも考えています。

6月2日、都内での講演より

広島・長崎市長からの呼びかけ

核兵器廃各施設廃絶を求める私たちをはじめとする人々を「オバマジョリイティー」と呼びたい。2020年までに核兵器を全廃するには、現存する施設を活用し、核兵器を解体するだけでよい。

秋葉忠利さん

核保有国の代表に呼びかけます。ぜひ長崎にきて原爆資料館を訪れ、被爆の跡をみて、被爆者の声に耳を傾けてください。私たちがどうしてこれほどまでに各兵器のない世界を求めるのか理解できるはずですよ。

長崎市長 田富久さん

NHKアーカイブス・プライム10

生命をかけた対論

～沢内病院の苦悩

9月19日(土) 14:00～16:00

於 鷹岡まちづくりセンター

主催 ゆきとどいた教育をすすめる会

9月29日(火) 18:30～20:30

於 富士駅南まちづくりセンター

連絡先 NPO 法人富士市民劇場内(伊藤・安保)

Tel 0540(63)9201 Fax 0545(62)1687

富士市での上映予定

上映する会

「いのちの山河」
日本の青空Ⅱ
《主催》映画「日本の青空Ⅱ」を

映画の力で、平和憲法を生かそう！
★映画の完成予定は6月です。富士市での上映は9月下旬を予定しています。それまでに憲法25条や生存権などの学習を各地域や職場で行っていきましょう。

「未決・沖縄戦」を

観ての感想

昭和六年満州事変勃発の時、小学校一年生であった私は、昭和十一年の二・二六事変をごく身近で体験し「今からでも遅くない・・・」の書き出しのビラが、軽飛行機から反乱兵士の頭上にばらまかれたのを目撃し、子供心にも軍事力の暴力を感じていた私であるが、「未決・沖縄戦」のDVDを拝見し、戦いと言つ、生命を軽んじる力の恐ろしさ、そして戦争の起す悲惨さを改めて感じたものである。

日本本土での空襲の恐ろしさは体験したものの、敵軍が上陸し、人々が生活しているその家に、艦砲射撃を浴びせられ、親が子が、目の前で殺害される現実、到底私には実感として、深く理解できることではなかった。特にこのDVDは、体験した本人の証言で占められ、六十二年前に起きた事ではなく、ついこの間に起きた恐ろしい出来事のように、私の心を捕え、強く迫ってくる。ニユーギニア・アッツ・サイパン・グアム諸島の守備隊の全滅、そして三月十日の東京大空襲の後、沖縄に米軍が上陸したのである。証言をお聞きすると、米軍の多量の物量作戦の前に日本軍の抵抗も

旋なく、人々はその家を奪われ、土地を放棄して逃げ惑つより仕方なかった人達であり、その間、砲撃で、爆撃で、あるいは機銃射撃で、共に居た

親や兄弟が、目の前で犠牲にされた姿である。野戦病院では切断された足を拾い、手を拾って集めたという証言もあり、戦いの悲惨さを、まざまざと私達に伝えてくれている。お聞きした証言の中には、一生他言できないと、心に誓った言葉もあり、その中に「貴女でなくて良かった」と言つた戦いの生死の中にありながら、他人の事を思つ暖かい言葉も披露され、感銘深い言葉で満ちている。それだけに、人間性を無視した戦争の悲惨さが、聞く我々に迫ってくる証言内容である。日本の国土で起きた戦い、そして現在も中東で、アフリカで起きている戦争を、何となく他人事のようになんか無関心になりがちの我々の意識を、他人ごとではなく、身近な問題としてとらえ、我々として何をなすべきかを考える起爆剤として、用いて貰いたいと思った。

そして平和憲法九条改定を迫る日本国内の動きを、もっと切実な問題として捕らえ、多くの人々の意識を、平和を守るものとする資料として用いたいものであると思った。

吉原教会 平和を祈る会 城所 進

良知勝平さんの話を聞いて

て、リホール富士へ行きました。昨年五月千葉の幕張メッセにも参加させていただき大変感銘を受けました。この度はピースポートで世界を巡つてこられた良知勝平さんのお話でした。四ヶ月の船旅のお話しには要点を話され、一緒にピースポートに参加しているような思いでした。世の中が進歩し世界中のことが手に取る様に耳に目に入る時代ですので、良知さんの話がいっそう身近に楽しく聞くことが出来ました。そして私は沢山のメモをとり家に帰つてそれを清書してみました。二百人の人達がそれぞれの趣味のグループを作ったのしむ船旅は最高の偉かと思えました。有名な方たちも「水先案内人」として参加されたようです。

良知さんの明るさは合唱のグループのご指導をしているところからくるように感じ取れました。四ヶ月と長いようで過ぎれば短かったと思いますが、その経験を私達に話していただき有難く思います。お友達の袋井市に住む佐野昇さんがこの旅の本を出版されるそうですので注文しました。人生八十年戦争で沢山のお友達を亡くしました。憲法九条を守らなければ戦争で亡くなった人達に申し訳ないと思っています。

富士市在住 T・M 八十三才

四月二十五日、富士・九条の会のニュースを見

守ろう憲法 9 条、生かそう憲法 25 条

＜討議資料＞

憲法前文で「われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。」という一節の文章が織り込まれています。この中には珠玉といってよい①「恐怖と欠乏からの解放」、そして②「平和のうちに生存する権利」という文言が緊密に組み合わされています。

①は第一に専制・暴虐・抑圧・暴力なによりも戦争の恐怖からの解放であります。第二に飢え・渴き、病い、衰弱、極貧、蒙昧など、貧しさからの解放であります。これら二つの理念は平和・福祉国家の実現です。第 9 条の平和理念と第 25 条の福祉理念とは不可分の関係であることが提示されました。②は平和的生存権を言ったもので、全世界の人のびとが平和・福祉国家のもとで生きる権利を謳ったものです。

憲法草案になかった生存権

憲法 25 条にある生存権は憲法の原案となった連合軍(GHQ)案にはなかった条文です。新しい憲法制定に伴い、生存権の明文化を強く主張したのが、憲法学者の森戸辰男です。ワイマール憲法を学んでいた森戸は、生存権こそ必要であると粘り強く主張し続けました。25 条を受けて、生活保護法が作られました。生存権を危うくされた国民を救うために作られた法律です。

国民の権利としての憲法 25 条

この生存権がいま、規制緩和を受けて存在が危うくなっています。非正規雇用を大量に生み出す構造を作り上げた改革は、生活保護法も聖域なき改革と大ナタをふるい、結果としてこの国の国民の生存権を危うくしています。

新自由主義は、極めて一部の成功者が、社会的な負担を負うことになっています。成功者は、その負担すら拒むべく自らに有利な税体系や法律を作り上げようと画策し、それがさらなる貧困を生み、生存権を奪うことになっています。格差がさらに広がっています。

日本の失業者の 70%は雇用（失業）保険も受給していませんし、生活保護すらも受けていません。世界第 2 位の経済大国の国民は、貧困であるが故の生存権すら補償されておらず、憲法 25 条が生かされていない状況にあります。

平和的生存権および憲法 9 条の今日的意義

第 1 に平和的生存権は、すべての基本的人権保障の基礎となる具体的人権であり、アフガニスタン、イラクなど戦争・武力紛争や暴力の応酬が絶えることのない今日の国際社会において、全世界の国民の平和に生きる権利を実現するための具体的規範とされるべき重要性を有します。

第 2 に、戦争は最大の人権侵害・環境破壊であり、対人地雷、劣化ウラン弾、クラスター爆弾、核兵器、生物・化学兵器などの発達に伴い、今日の戦争や武力紛争は、甚大な環境破壊を伴いながら、死者や負傷者のうち一般市民・非戦闘員が占める割合を飛躍的に増大させ、場合によっては、勝者も敗者もない残酷な殲滅戦争として続く可能性が大きい。このような状況において、今日軍隊・武力による平和の実現という思考では平和の実現は不可能ないし困難であることが意識されつつあります。平和的生存権および憲法 9 条はそのような意識を強く後押しするものであり、平和なくして人権保障はありえないことから、きわめて重要であります。

伊藤真さん 私たちの暮らしと憲法 9条、25条、国民投票法案



伊藤真さんの経歴

司法試験や公務員試験のための「伊藤塾」は、全国に8ヶ所。憲法の理念を広めるための活動を精力的に展開している。

以前は憲法講演会を計画しても年に1〜2回しか依頼がなかったが、最近は講演依頼が増え、今は年間100回に答えることが出る。

6月12日の毎日新聞に伊藤真さんのインタビュー記事が載っていましたので紹介します。世の中で大切なのは、個性をもった個人であると思っている。そう思うようになったのは、中学生のとき父親の仕事で西ドイツにむかう飛行機からヨーロッパ大陸を見たとき、森だけが見え国境がないことに気づいたからです。人種や民族や国籍で人をくくってしまうのはおかしい。東大の法学部在学中に司法試験に合格するが、弁護士としての道を本業とせず「伊藤塾」を開き、後輩の教育や講演に専念している。

来なかった。「悔しくて、改めて勉強し直しました。今では日本国憲法で一番大切なのは『個人の尊重』であり、そこから、基本的人権も、国民主権も、平和主義も導かれる、と主張している。

2年前に富士宮で講演会

富士宮市民文化会館大ホールで一昨年講演会が開かれました。その時の要旨を述べさせていただきます。当時は、小泉・安倍総理の時代で自衛隊の海外派兵、イラク戦争後の改憲の動き、国民投票法の成立などを通じて、国民が政情危機感をもち、憲法に無関心でいられなくなっていました。伊藤さんは、今がどういう時代か、との問いかけに、貧困を戦争に利用しようとする動きは50年前と変わらないと答えました。今回の富士での講演では、平和問題の憲法9条と貧困・格差・福祉など憲法25条の「生存権」とのかか

「私たちの暮らしと憲法」

講師 伊藤 真さん

日時 9月13日(日)

13時30分〜15時30分

場所 富士北まちづくりセンター

主催 きらり交流会議・SUDACHIの会

共催 富士市男女共同参画課

連絡先 平野久子 0545(63)6582

わりなど話していただくよう要望しています。

戦争展の準備にご協力を

本年度の富士市の戦争展は8月11日〜16日・ロゼ・シアターで開催予定されています。富士・九条の会では次のテーマと内容で展示を予定しています。みなさまのご協力をお願いいたします。

【テーマ】守ろう憲法9条、

生かそう憲法25条

【内容】憲法草案になかった生存権

国民の権利としての憲法25条
平和的生存権および憲法9条の
今日的意義

映画「いのちの山河」

日本の青空II」

世話人会のお知らせ

○とき 9月2日(水)

(1) 14時00分〜16時00分

コープしずおか中島店

(2) 18時30分〜20時30分

ラ・ホール富士

○内容 「日本の青空II」・総会・戦争展など

ニュース27号の原稿を8月10日までに寄せ下さい。